令和7年度　教育課程特例校実施状況　評価報告書

学校法人 素和美国際学院　素和美小学校

素和美小学校は、文部科学省から「教育課程特例校」の指定を受け、すべての教育活動を英語で行う イマージョン教育を実践している、全国でも数少ない学校です。子どもたちが自然に英語を身につけながら、のびのびと学習できる環境づくりに取り組んでいます。

令和7年度は、前年度後半に生じた教員体制の変更を受け、**新たな運営体制のもとで教育活動を 再構築した一年**となりました。ここに、本年度の取り組みと成果をご報告いたします。

1. 英語イマージョン教育の取り組み

【日常的に英語があふれる学校生活】

取り組み内容	実施状況と成果	評価	学校関係者からのコメント
毎日の 英語環境	◆朝のミーティングから帰りの会まで、英語で実施 ◆新体制のもとで英語使用のルールを改めて共有し、年度を通じて安定して運用 ◆上級生が下級生に英語で教える姿が引き続き見られます	A	特段の意見なし
体験を通じた学び	◆理科の実験、図工の制作、体育活動も英語で実施 ◆「Learning by Doing（実践による学習）」を大切にしています ◆英語を「勉強」ではなく「コミュニケーションツール」として活用	A	特段の意見なし
ICT を活用した学習・国際交流	◆ICT 機器を使った調べ学習やプレゼンテーション ◆英語学習支援アプリを試験的に導入し、個々の習熟に応じた学習機会を確保 ◆インターネットによる国際的な自然・歴史の調査発表	B	特段の意見なし

備考：評価　A（大変良好）　B（良好）　C（概ね良好）

2. 探究的な学びの実践

【子どもが主役の学習活動】

取り組み内容	実施状況と成果	評価	学校関係者からのコメント
探究型学習	◆子どもたちの「なぜ?」「どうして?」から始まる探究活動 ◆環境、地域の歴史、科学実験など、興味に応じてテーマを設定 ◆前年度に縮小した活動を段階的に再開し、英語でリサーチ・発表する流れを学期ごとに実施 ◆活動の規模及び回数は回復途上にあり、年間計画の策定が次年度の課題	C	特段の意見なし
異学年協働学習	◆1～6年生が一緒に学ぶ機会を多く設定 ◆お互いに教え合い、助け合う文化が根付いています ◆年齢を超えた友情と信頼関係が育まれています	A	特段の意見なし
成果発表の充実	◆学期ごとのプレゼンテーション大会を実施 ◆保護者や地域の方々を招いての発表会も開催 ◆全学年の児童が、調べたことや考えたことを英語で発表する機会を得ました	B	特段の意見なし

備考:評価　A(大変良好)　B(良好)　C(概ね良好)

3. 地域・自然環境を活かした学び

- **地域との交流活動**　地域の方々に英語を教える「子ども先生」プログラムを実施。各種イベントでの英語によるコミュニケーション。
- **豊かな自然環境を活用した調査**　自然環境について英語で調査・議論・行動。学校周辺の森や谷川の調査活動を実施。
- **国際的な学びの機会**　令和7年5月、フィンランド政府公認の教育機関である SYKLI の関係者による本校への訪問を受け入れるとともに、フィンランドにおける教育の取り組みに関する講習を実施し、教職員が探究的な学習の進め方について知見を得た。

4. 児童の学びの姿

- **英語による学校生活**：朝のミーティングから帰りの会まで英語で行う日課を、全学年で年度を通じて継続しました。
- **英語による発表**：全学年で、学期末のプレゼンテーションを英語で実施しました。保護者や地域の方々を招いた発表会も行いました。
- **英語による記録**：学習記録（ブラックバインダー）及び英語による日誌の記述を、全学年で継続しました。
- **卒業論文**：最終学年において、卒業論文を英語で執筆し、発表しました。
- **外部検定**：令和7年度の受検・合格状況は現在取りまとめ中であり、確定後に 本報告書へ追記します。

5. 今後の展望

令和8年度に向けて、さらに充実した教育活動を計画しています。

- **指導体制の安定化**：新体制での教員研修を継続し、イマージョン教育の指導力を高めます。
- **国際交流の拡大**：海外の学校との交流機会の創出を進めます。
- **ICT の本格活用**：英語学習支援ツールの本格運用により、個に応じた学習を強化します。
- **地域資源を活かした探究**：富士山麓の自然・歴史・産業を題材とした探究学習を検討します。
- **STEAM 教育の強化**：科学・技術・工学・芸術・数学を英語で統合的に学習します。

おわりに

素和美小学校は、子どもたちが英語を自然に身につけながら、自ら考え、学び、成長できる環境を 提供し続けます。令和7年度は運営体制の再構築に取り組む一年となりましたが、児童の学びを止めることなく、 教育活動を継続することができました。すべての子どもたちが輝ける学校として、今後も教育活動の充実に 努めてまいります。

ぜひ一度、子どもたちの生き生きとした学習の様子をご覧にいらしてください。学校見学は随時受け付けております。

お問い合わせ

学校法人 素和美国際学院　素和美小学校
〒401-0302　山梨県南都留郡富士河口湖町小立5703
電話：0555-72-3031　／　メール：suomi.ps@gmail.com
公表URL：https://suomi-school.ed.jp/site/about

令和8年　8月　4日

学校法人 素和美国際学院　素和美小学校長　黒川　佐穂子

令和7年度　教育課程特例校実施状況（自己評価・学校関係者評価）に係る評価事項

学校法人 素和美国際学院　素和美小学校

文部科学省から「教育課程特例校」の指定を受け、素和美小学校では全ての教育活動（学校生活全般・教科学習）を 英語で行うイマージョン教育を実践しています。ここに令和7年度の自己評価結果を公表し、さらに充実するよう 取り組んでまいります。

項目	具体的な取り組み	自己評価	反省と改善策	学校関係者評価	意見
英語で行う特色ある学び （英語環境の充実）	• 1. 朝のミーティングや日常会話での英語使用を継続する。 • 2. ブラックバインダーによる学習記録の継続実施を図る。 • 3. 教室掲示物や学習環境の英語化を維持する。 • 4. 英語図書の活用と読書活動を推進する。 • 5. ICT 機器を用いた英語学習を継続する。 • 6. 新体制における教員間の協力体制を定着させる。	B	• 1. 新体制のもとで英語使用の方針を改めて共有し、年度を通じて朝のミーティング・日常会話での英語使用を継続できた。 • 2. ブラックバインダーによる学習記録は児童に定着しており、上級生が下級生に使い方を伝える形で運用が継続された。 • 3. 教室掲示物の英語化は維持できたが、更新頻度に課題が残った。次年度は掲示の計画的な更新を行う。 • 4. 英語図書の活用は児童主導で継続され、読書習慣は維持できた。蔵書の補充が今後の課題である。 • 5. ICT を用いた英語学習に加え、英語学習支援アプリの試験導入を行い、個々の習熟に応じた学習機会を確保した。 • 6. 前年度後半に着任した教員への研修と引き継ぎを継続し、年度を通じて安定した指導体制を維持できた。	B	自己評価の内容を了承。特段の意見なし。
英語による探究的な学び	• 1. 児童の興味に基づく学習活動を英語で実施する。 • 2. 教科学習における英語活用を維持する。 • 3. 個々の児童への支援体制を継続する。	C	• 1, 2. 前年度に縮小した探究的学習を段階的に再開し、テーマ設定から発表までの流れを英語で行う活動を学期ごとに実施した。活動の規模・回数は回復途上にある。 • 3. 個別支援については児童一人ひとりの学習状況を教員間で共有しながら対応した。児童同士の学び合いも引き続き効果的に機能した。	C	自己評価の内容を了承。特段の意見なし。

	• 4. 新体制における教員研修を実施する。		• 4. イマージョン教育の理念と実践方法に関する校内研修を実施し、指導方法の共有を図った。外部研修への参加機会の確保が次年度の課題である。		

備考　A（十分に効果があった）　B（成果があった）　C（少し成果があった）　D（成果がなかった）